２０１６年１月６日
愛知製鋼株式会社

# ２０１６年　社長年頭挨拶(要旨)

"やりきろう！実力のベースアップ"
～「Ever　Better」（これまで以上）の実現と継続で年輪的成長の実現～

愛知製鋼株式会社（本社：愛知県東海市、社長：藤岡高広）は、2016年1月6日（水）、当社体育館（愛知製鋼企業年金基金体育館[アスカム]）において「社長年頭挨拶」を行った。

＜藤岡社長年頭挨拶　要旨＞

皆さん、新年明けましておめでとうございます。2016年のスタートにあたり新たな決意と目標を胸に新年を穏やかに迎えられたことと思います。

## 1.【昨年の振り返りと 2016 年の環境】

私はこれまで、皆さんに「I Will～自変元正～」のもと、昨年は『「まずやってみよう！」の気持ちで、自分から変えていこう』とお話しました。皆さん自身の意識の変化により、社内の環境は大きく、良い方向へ整いつつあるように思います。

今年は、「まずやってみよう！」で始めた取り組みを形にしていく年であり、<u>この１年をどのように過ごすかで今後 10 年が決まる大事な年になると言えます。</u>

しかしながら、当社は為替や原材料・エネルギーなど、市況変動に影響を受けやすい特徴を持っており、当社が持続的に発展していくためには、<u>「先を見通す力」</u>と、社会環境がどんなに変化しても負けない<u>「真の実力」</u>を兼ね備える必要があります。特に、不安定要素を跳ね返すためには、場当たり的な改善でごまかさない<u>「実力のベースアップ」</u>が重要です。

## 2.【原価低減活動『ZZZ200(ﾄﾗｲｾﾞｯﾄ 200)』のやり切りに向けて】

企業には安全や品質、CSR や原価など様々な種類の<u>「実力」</u>が必要です。今年は特に「原価」に注目し、<u>『原価低減』の大切さ</u>について、改めて皆さんにお話したいと思います。

原価低減活動＝『ZZZ200』活動のやり切りの達成に向け「点」で活動を終えるのではなく、<u>原価低減効果を「面積」として後戻りさせずに定着させ</u>、そこから新しい目標に向かってスタートダッシュを切れる状態をつくり上げることが重要です。

一人一人が当事者意識を持ち、全員参加で原価低減をやりきることで、会社全体の実力の底上げをしていきましょう。それが、実力のベースアップにつながるのです。

## 3.【皆さんにお願いしたいこと】

<u>「常に Ever Better（これまで以上）の実現と継続」</u>を心掛け、どんなに社会環境が変化しても負けない「真の実力」を兼ね備えた会社にしていくために、みなさんにお願いしたいことがあります。

1）安全と健康は全てに優先
2）全員参加での積極的活動
3）実力の生命線は Q、D、C であることの再認識
4）「当事者意識」と「健全な危機感を持つ」
5）"当たり前"を捨て、現状を打破する　～毎日、昨日以上の今日を作り出す～
6）先を見通す力をつけ、仕事や製品に付加価値をつける
7）新本館建設に伴う仕事のやり方の変革、生産性向上

<u>今まで以上の「仕事の質」を実現・継続させることで、会社としての実力のベースアップを達成し、世界で選ばれる会社を目指していきましょう。</u>

<u>－やりきろう！実力のベースアップ－</u>